日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業プログラム
―平成29年度の報告―

安　原　順　子

1．はじめに

本稿では、eポートフォリオ[注1]の活用により、パソコンやスマートフォンを使用したオンライン上の双方向授業を中心にし、日本語教員養成と日本語学習に資する授業プログラムを構築することについて報告する。reflective journal（学習ダイアリー）[注2]を使用する双方向授業を活かし、海外の大学との間で日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業を実施し、また、eポートフォリオに学生が提出したreflective journalや教案を質的に分析[注3]することで、その有効性を明らかにする。

本稿では、特に本年度のプログラムにおける「学生の気づき」について報告する。

2．先行研究

これまでの研究では、海外の大学との双方向学習プログラムを対象とした研究報告はほとんどなく、したがって授業モデルの構築にも至っていない。わずかにある研究も、web上のオンライン（Black boardやmanaba[注4]等）を使用した研究ではない。

本研究代表者が実施した双方向授業では、神戸女子大学の日本語日本文学演習Ⅱ受講生には、実践を通した学生の日本語教育への意欲の向上が見られた。また、AUTの日本語授業受講生には、授業の課題作文提出数の増加が見られるなど、双方に一定の成果がみられた。つまり、双方向授業の形態が日本人日本語教員の養成と外国人の日本語学習において効果があると実証できたのである。

3．研究の意義

本研究は、授業における実践を研究対象とし、海外とのオンラインを使用した交流が増加する中、遠隔授業の一つとしての授業モデルを構築するところに特色がある。

さらに、本研究の独創的である点は、以下の点である。

⑴ 双方向授業の形態をeポートフォリオとして活用し、授業モデルを構築している点。

⑵ reflective journalの使用とそのeポートフォリオ化により、学生自身の「学びの気づき」を重視している点。

異文化間コミュニケーションの一形態である外国文化・外国人との接触は、一方向的なものではなく双方向的でなければならない。日本語教育・日本語学習において、双方向に

有益となる学習プログラムは、今後、遠隔授業の一形態としても必要とされるものである。

４．研究計画・研究方法

平成28年度から3年間の間に、以下の点を明らかにする。本年度は、その2年目に該当する。

⑴ 日本語教員養成と日本語学習者のため双方向学習プログラムモデルの構築と検証

神戸女子大学学生:双方向授業などを通し外国人の書いた日本語を読んだり、話した日本語を聞いたりすることや、実際に外国人への日本語指導を通して得た知識や指導力を、ｅポートフォリオの提出物から振り返る。

AUT学生：日本人学生と接して、日本語学習に対する学習姿勢にはどのように変化があったか。

⑵ 双方のreflective journalを質的に分析した結果から考察した学習効果の検証

使用する質的分析は、SCAT（Steps for Coding and Theorization）と称され、言語データを4ステップでSCATフォームに書き込み、さらにストーリー・ラインと理論を記述するというものである。今後の質的分析には、Thomas（2006）[注5]の使用も考える。

本研究は、遠隔授業の一形態として、さまざまな学習者主体の学修プログラムにも応用が可能であり、普遍性を持つ研究課題であると考えられる。主役は学習者であり、双方向学習プログラムは学びを促進するツールとして活用でき、学びのネットワークの起点となる。本研究を基礎研究として位置付ければ、さらに双方向学習プログラムの活用方法が拡がり、波及的な効果も期待できる。

４－１　研究の進め方

⑴ まず、以下に示す授業（文字を使用する双方向授業、音声を使用する双方向授業）を中心に、AUT（オークランド工科大学）研究者とともに学習プログラムモデルの試案を作成し、実施する。

⑵ 学習者のreflective journal、指導案、レポートを、その他の資料とともにｅポートフォリオ化して保存し、質的に分析する。

⑶ AUT研究者と協力して、双方向からの視点で分析を行う。

⑷ プログラム有効性について検証し、さらに改良を加え、構築したｅポートフォリオを活用した双方向学習プログラムが他の機関での授業モデルとなるようにする。

４－２　研究方法

- eポートフォリオに提出した以下の対象授業のreflective journal、指導案、レポートなどを分析し、自己評価、相互評価、教師による評価を行う。

番号	発話者	テ　ク　ス　ト	〈1〉テクスト中の注目すべき語句	
1	JS1	親の仕事の都合で海外ってなると私は正直嫌ですが、みんなそうでもないんだなと思いました。	親の仕事の都合 海外　嫌 そうでもない	
2	JS2	ニュージーランドで働くには英語から逃げられない。	働く　英語 逃げられない	
3	JS3	スカイプでの交流を振り返って一番印象的だったのはやはりNZに四季があるということです…。後から考えてみれば当然のことなのですが、とても驚きました。同時に、自分の世間知らずが露呈してしまい恥ずかしいです。ヨンさんがおっしゃっていた、日本と韓国のおみやげへの感覚の違いも興味深かったです。	印象的 NZに四季がある当然のこと　驚きました 日本と韓国のおみやげへの感覚の違い 興味深かった	
4	JS4	これまでに、autonlineでブログや作文、スカイプを通して、日本人以外の国の人とつながってきました。はじめは、しっかり受け入れてもらえるか、自分も受け入れられるか不安でしたが、回数を重ねていくうちに要領をつかんできて、相手のことをもっと知りたくなりました。今回のことをきかっけとして、ニュージーランドのことをもっと知りたいと思います。また同じように日本のことにも、もっと興味をもってくれたら嬉しいです。	つながってきました 受け入れてもらえるか 受け入れられるか不安 もっと知りたくなりました 日本のことにも興味をもってくれたら嬉しい	
5	JS5	AUTではいろいろな国の人が通っているので文化の違いがある。日本で当たり前のアルバイトでの丁寧な接客などが丁寧すぎるといったことが当たり前ではないということが一番驚いた。	いろいろな国の人 日本で当たり前 丁寧な接客 丁寧すぎる 当たり前ではない 一番驚いた	
6	JS6	全体の交流を通してやはり、異文化として考え方の違いについて考えさせられました。	全体の交流 異文化としての考え方の違い 考えさせられました	
7	JS7	異文化の大切さです。4回スカイプして、ブログで作文などをコメントしたあと、色々なことを学んだ。インドネシア以外の文化、言語、習慣も分かるようになった。日本人のだけでなく、ニュージーランド、韓国、フィリピン人の友達もできました。それはとても良い経験と思います。	異文化の大切さ 学んだ 友だちもできました 良い経験	
8	JS8	異文化の中で暮らす人々とは、お互いの考えを深く考慮し、相手の立場に立って理解する心持ちが大切なのだと感じた。	異文化の中で暮らす人々 お互いの考えを深く考慮 相手の立場に立って理解する心持ちが大切	
9	JS9	時事問題について質問することで、AUTの学生がオリンピックやairbnbについて、どんなふうに考えているのかが分かりました。	時事問題 AUTの学生 オリンピックやairbnb 考えているのか	

表1.　H29神戸女子大学学生のreflective journal分析例

	〈2〉テクスト中の語句の言いかえ	〈3〉左を説明するようなテクスト外の概念	〈4〉テーマ・構成概念（前後や全体の文脈を考慮して）	〈5〉疑問・課題
	生活する場所を選ばない	異文化接触による異文化への驚き	異文化接触により新たな知見を得る	新たな知見から得られたものはどのように役立つか?
	気づき 言葉の重要性	異文化接触により、新たな気づきを得る	異文化と出会い、気づきを得る	気づきからさらに得られるものは?
	異文化接触による驚き	異文化についての驚きと興味	外国について知識を得、日本との違いを考える	違いを知ることで、異文化理解は進むか?
	不安から興味、好感	異文化に接触し、異なる文化への理解を深める	外国人との交流を通し、さらなる興味をかき立てられる	興味を持ったことは、今後どのように活かせるか?
	異文化を認める 驚き	異文化を認め、自国文化を見つめ直す	異文化間コミュニケーションを通して、違いに気づく	他に、日本と異なるところは、どのようなところか?
	異文化に対する驚き	異文化に触れ、異文化の良さを知る。	ニュージーランドと日本の考え方を知り、その良さも知る	考え方の違いを知ることには、どのような利点があるか?
	異文化を理解し、受容する	異文化を理解し、異なる文化に興味を持つ	母文化と異文化の異なりを理解し、異文化環境にも興味を持つ	相手の文化を理解し、興味を持つことから、何が得られるか?
	新たな気づき 共感する 異文化を認める	異文化を認め、共感する	互いの文化ギャップを理解し、新たに考える	双方の文化を知る意義は?
	異なる考え方への驚き 楽しみ さらなる興味	異なる考え方をしり、深く興味を持つ	新たな考え方を知り、知ることの大切さを学ぶ	異文化を知ることはなぜ大切なのか?

- 双方の学生は、以下の授業に参加し、毎週各自が学習を自己評価して、その結果をreflective journalとして双方向授業ではAUT onlineに提出、常時「学習の振り返り」を行う。質的分析の一部を「表１」に示す。
- 神戸女子大学学生は、外国人日本語学習者の使用する日本語から、文法・音声の誤用についてレジュメにまとめて授業で発表し、eポートフォリオとして提出する。

対象となる授業１:

対　象　者：神戸女子大学…3年生の日本語日本文学演習Ⅱ（日本語教育ゼミ）

A　U　T…3年生主体のJapanese in the Global World（JGW、AUT日本語科では最上級レベルの本語クラスで、ヨーロッパ言語共通参照枠CEFR・B2レベル相当する）

参 加 学 生：神戸女子大学…9名（日本人学生および留学生）、AUT…15名

授 業 内 容：双方向授業…AUTonline使用し、実施する。

双方向授業のテーマ：「ソトから見た日本人、ウチから見た日本」、「海外長期滞在と移住」など。

AUT と神戸女子大学生でグループを作り、グループごとに一つのブログを用意する。

⑴ ブログ使用の授業: 文字を使用する双方向授業

①AUT 学生は２週間ごとに各テーマについての課題作文をブログに書き込む。

②神戸女子大学生は、それに対するコメントをブログに書き込む。

⑵ スカイプ[注5]使用の授業: 音声を使用する双方向授業

①担当教員がスカイプでのインタビューを設定し、ブログのテーマに沿って日本人学生が用意し、ブログ上に書き込んだ質問に答える。1グループ約10分間の交流を行う。

②担当学生に、2週間ごとに与えられたテーマについてビデオレターで三つの質問を行い、その質問の答えをビデオレターとして受け取る。

対象となる授業２:日本語模擬実習、日本語チューター

参加予定学生等：神戸女子大学3・4年生

授 業 内 容：日本語指導の実践…eポートフォリオを通して実習の指導を行い、教育実習案、教材、reflective journalを提出する。

⑴ 日本語模擬実習（海外教育実習を含む）

学内、海外でeポートフォリオを活用した日本語教育実習を実施する。

⑵ 日本語チューター

授業の一環として外国人留学生・研修生対象の1回完結型の日本語指導を毎週行う。指導は、外国人が日本語で「～できる」ことを重視する。また、Plan（企画）、Do（実

施）、Check（点検）、Action（改善）というPDCAサイクルを重視し、常に外国人のニーズの変化に対応できるようにする。

授業終了後は、各自が担当したAUT学生についてレジュメを作成し、日本語日本文学演習Ⅱ（日本語教育ゼミ）で発表する。

5．学生の気づきと自立学習

今年度のプログラムでは、発表用レジュメ作成のため、各学生はAUT担当者のブログの日本語を添削し、ビデオレターの日本語を聞き返すことで以下の気づきが得られ、それが自立学習へとつながっていく。

外国人の日本語を書く能力

- 助詞の間違いが多い。
- パソコン使用で、漢字の変換ミスが多い。
- カタカナ語を正確に表示できない。
- 日本語表現の使い方が間違っている。

外国人の日本語を話す能力

- アクセントが違う。
- 長短音の区別ができない。
- カタカナ語を、英語の原音に近い音声で発音してしまう。

これらの結果から、⑴学生が主体的に学習し、成果を実感できた（自己評価）。さらに、⑵reflective journalの使用と分析、ｅポートフォリオ化により、学生自身に加えて、担当教員も授業の効果や問題点を把握しやすく（教員による評価）、⑶学生同士の相互評価ができた。（相互評価）

6．まとめ

今年度の研究の成果からは、海外の日本語学習機関との新しい学習プログラムの構築と質の向上が見込まれる。さらに、その結果が、双方向授業を使用した学習プログラムの構築へとつながると考えられる。

謝辞：　本研究はJSPS科研費 JP16K02832の助成を受けたものです。

注

注１　web上で、学習成果を体系的にまとめたものを指す。森本康彦（2011）「高等教育におけるeポートフォリオの最前線」『システム制御情報学会誌』No10

注２　常時、各自が学習を自己評価し、その結果を提出、「学習の振り返り」を行うために使用する。

注３　大谷尚（2008）「４ステップコーディングによる質的データ分析手法」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学）』第54巻第2号。本研究課題のような小規模データ分析に適した方法。

注４　神戸女子大学online manabaの試用を検討する。

注５　Thomas, David R. (2006)"A General Inductive Analyzing Qualitative Evaluation Data"
American Journul of Evaluation, June2006

参考文献

大谷尚（2011）「SCAT:Steps for coding and Theorization：明示的手続きで着手しやすく小規模データに適用可能な質的データ分析手法」『感性工学』日本感性工学会、第10巻3号、pp.155-160

安原順子（2016）「日本語教員養成と日本語学習に資する双方向授業プログラム―現状と問題点―」『神女大国文』第27号pp.106-112

安原順子（2015）「eポートフォリオと日本語教員養成」『神女大国文』第26号pp.58-64

Thomas, D. R. (2006)A General Inductive Analyzing Qualitative Evaluation Data, American Journul of Evaluation, pp.237-246